

港合同水曜行動・弁天町街宣

地域の労働者の結集軸に

編集委員 K

今年の春闘から始まった弁天町駅前での港合同の街宣。毎週水曜日、早朝と夕刻を交互にしながら一時間弱、半年を越えて「港合同」の大ノボリがはためき続けています。毎回、一〇〜二〇人規模で、ピラも内容や紙の色を変えて、まずは継続する事、駅前に登場し続ける事を一番に考えて取り組んできました。

かつて、港合同は年四大闘争の度に、ハチマキをした労働者が駅前に出て、「回答速報」を配布する姿が四季の風物詩であり、通行する労働者は、多くは作業着姿でピラが吸い込まれるように受け取られたものでした。今回、取り組み始めた当初は、ピラの受け取りの悪さや朝夕の通行する人の服装の変貌ぶりに驚いたものでしたが、へこたれずに続けてきた事で、今では朝三〇〇枚超、夕方ではついに五〇〇枚を撒き切るまでに定着してきました。

この街宣方針は、もちろん労働相談を通じて組織強化・拡大を目指すものです。しかし同時に、組織内の組合員が統一闘争としてこの街宣に参加する事を通じて地域的団結をより強化しようとするものです。また未組織労働者への働きかけを軸とする事で、組合が無い職場にも、組合の影響力（賃金水準や権利など）を拡大する事です。

そして現下の橋下市政による組合攻撃、団結権破壊に対して、労働組合が一步前に出て、労働者の物の見方、考え方を含めて、労働者に見える活動を展開する事で、社会的な影響力を確保するものになります。街頭に立ち続けている事で、地域の友好労組や団体の方たちとの交流や、通行する労働者からその場で相談が寄せられたりするようになっていきます。争議支部支援と共に水曜行動を日常活動の軸にして、港合同の組織強化・拡大に向け奮闘しよう！



組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！